

令和5年度 高志中学校3年「高志学」シンガポール研修

- 1 期 日 令和5年11月7日(火)～11日(土)
- 2 目 的 (1) 現地での生活や現地学生との交流等を通して国際感覚を養うとともに、3年間学んできた英語を実践する機会とする。
(2) 高校2年次の選択型研修や、将来の海外進学・留学の短期トライアルとする。
(3) シンガポールの歴史や文化、政治、経済活動等を学ぶことで多様なものの見方や価値観を身につけるとともに、「ふるさと福井」の未来のあり方について考える機会とする。
- 3 場所(活動) 市内班別研修、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ研修、シンガポール動物園研修
企業訪問研修、シンガポール国立大学附属数理学校交流研修
- 4 参加生徒 86名

5 報 告

[シンガポール国立大学附属数理学校 (NUSH) 交流研修]

NUSH交流研修では、全体集会で高志中、NUSHそれぞれの学校や国(県)についてのプレゼンテーションを行いました。生徒は丁寧な話し方で、中高合同の学校祭や部活動などの学校生活と、福井県を奥越や丹南のエリアに分けて、ソースカツ丼や東尋坊などの食や観光地について説明していました。その後、クラス毎にグループセッション、伝統的な日本の遊び、NUSHのキャンパスツアーを行いました。

グループセッションは生徒が設定した5つのテーマに分かれて行われ、テーマが「姿勢(多文化共生の意識に大切なことは)」のグループでは、「お互いの文化を知り、尊重することが重要だ」という意見が、テーマが「自然(心地よい生活をする上で緑をどのように取り入れるべきか)」のグループでは、「日本もシンガポールも植物を育てたり、緑に囲まれた場所で身体を動かしたりすることがリラックスにつながる」という意見が出され、お互いの生活や文化の違いを知り、それらの価値を再発見する学びが生まれていました。伝統的な日本の遊びでは、「折り紙」で紙飛行機を作っていっしょに飛ばしたり、「なんじゃもんじゃ」のカードで盛り上がりたりする姿が印象的でした。キャンパスツアーでは、NUSHの広大な校舎を案内され、物理デモでは物理現象を身近に感じる事ができました。

最後に、NUSHの生徒と食堂でお弁当を食べて1日を振り返ったり、生徒一人ひとりが作成したお土産を贈呈したりして、国を超えた絆を深めることができました。



[市内班別研修]

班別研修では、班ごとに現地大学生との写真撮影と行程確認から開始しました。生徒は現地の方の言葉が通じるのか、また行程通り進めることができるのかなど不安を抱えながらも、自分たちで考え、学びながら楽しい表情を見せていました。地区ごとに異なる文化を体感する中で、本校生徒は相手を敬う振る舞いや真摯に学ぶ姿勢により、現地の案内人からお褒めの言葉をいただきました。集会場であるガーデンズ・バイ・ザ・ベイでは、代表の生徒から現地大学生に英語でお礼を述べることで、研修の最後をしめくくることができました。



[ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ]

シンガポール政府の事業として建設されたガーデンズ・バイ・ザ・ベイは、シンガポールだけではなく、世界各地の植生を見学できる構成となっており、生徒は理科の授業で学んだシンガポールの環境保護・エネルギー循環プロジェクトである『グリーンプラン 2030』を実感しながら、印象に残った植物をスケッチしながら散策していました。また、映画『アバター』の世界観とリンクした環境へのメッセージを伝える展示やガーデンズ・バイ・ザ・ベイのシンボルであるスーパーツリーに治水の役割があることなど、さまざまな魅力や役割を持った施設であることが分かりました。



[シンガポール動物園研修]

最初に、マンダイ・ワイルドライフ・グループ国際営業部シニアマネージャーの野口さや香さんから講義を受けました。野口さんは日本語教師としてシンガポールに渡り、その後、旅行会社やホテル営業などの仕事を經由し、幼い頃からの夢である動物園で働いています。「人々と野生動物とが、共に繁栄する世界」を目標に、自然や野生動物の保護活動を行っていることを教えていただきました。驚いたことは、入場料金の一部が、近隣諸国の野生動物の保護活動にあてられていることでした。この動物園にいる動物は檻の中で飼育されているのではなく、自然環境で生息する野生動物の環境に近くなるように配慮した動物園となっており、生徒は動物に魅了されていました。



[企業訪問研修]

6つの企業（6業種）にご協力をいただき、訪問研修を行いました。シンガポールでの滞在期間に違いがあるものの、日本を離れ現地で働く人からのお話は、生徒にとって大変有意義なものでした。MIWA TECHNO PTE LTDの代表取締役である木村康弘さんは、「人間形成」の大切さを熱く語ってくださいました。「人間形成」のためには、世の中の出来事に目を向け、善悪の感性を磨き、正しく学び続けることが必要であると教えていただきました。他の企業においても、「挑戦することの大切さ」、「自分の価値観を持つことの大切さ」、「人のためになることを考えて行動することの大切さ」など、日本でも異国の地でも大切なことは変わらないことを学ぶことができました。

